

はあもに

Harmony

To Women
For Women
and By Women

第5号
2021年9月発行

特集

母の生き方

おかんがつないだバトン

～信仰継承10か条～

大嶋重徳 牧師

はあもに広場

ステイホームを充実させたわたしの一品

暮らしのヒント

花のある暮らし



わたしの目には、あなたは高価で尊い。
わたしはあなたを愛している。

聖書 イザヤ書 43章4節（新改訳）

SINCE YOU ARE PRECIOUS AND
HONORED IN MY SIGHT, AND BECAUSE
I LOVE YOU...

ISAIAH 43:4 NIV



はあもに

Harmony

『はあもに』はすべての女性のために
つくられた雑誌です

第5号 もくじ

特集 母の生き方

4 おかながつないだバトン
～信仰継承10か条～
大嶋重徳 牧師

8 ことばをとどける
バイブルメッセージ
大きな愛の中で
朝澤まりこ

10 はあもに広場
ステイホームを充実させたわたしの一品

12 祈りの部屋
心声を聴いてください
徳永由美

14 すてきなひとたち
第5回 救世軍京橋小隊
伊藤義路さん、明子さん

16 暮らしのヒント
花のある暮らし
協力 Florist IT0

18 海外支援
一円献金
プレゼント企画
『はあもに』定期購読のご案内

「お母さん」と聞いて、あなたは
どのようなイメージをもつでしょうか
「お母さん」から何を受け取ったでしょうか
子どもが健康で育つことを願い
間違った方向に行かないように必死になる
そんな母親の気持ちは
自分が成長してからわかることかもしれません
完璧な母親は一人もいません
どうすればいいのか、何が正しいのか
悩み苦しみ、もがいています
失敗もします
だからこそ
私たちを造ってくださった神様を頼り
どう生きていけばいいのか
どこに向かっていけばいいのか
日々求め続けたいと思います
母を思い、懐かしむ人や
今、母として奮闘する人が
神様の深い愛を受け取れますように
お祈りいたします

はあもに

Harmony

おかんがつないだバトン ～信仰継承10か条～

子どもたちのここぞ！というタイミングを
逃さないクリスチャン育児

小学校教員をしていた私の母親はクリスチャンでした。同じ小学校教員のノンクリスチャンの父と結婚し、祖母同居の中、母の信仰生活は始まりました。「この信仰だけは子どもに伝えなアカン」と、母は私たちきょうだい三人を、毎週日曜日教会に連れて行きました。家に帰ると、私はクリスチャンではない祖父母の前で、食前の祈りの手をテーブルの下に隠して祈っていました。クリスチャンとして難しい立場に立つこともあり、泣きながら長男の嫁をしていた母の姿を、幼い頃から見てきました。決して立派な信仰者でない母ですが、その信仰は子どもたちに伝わりました。母から教わった十のことをお分かちしたいと思います。

これが
クリスチャン
ホーム!?



大嶋重徳 牧師
Shigenori Oshima

1974年、京都府福知山市生まれ。大学卒業後、KGK（キリスト者学生会）主事を務める。神戸改革派神学校及び、オーストラリアのムーア神学大学で学び、教会の働きだけでなく、青少年伝道に力を注ぐ。2016年から2020年までKGK総主事を務める。現在は鳩ヶ谷福音自由教会主任牧師。一男一女の父親。

1. 夫婦は仲良く

イケイケな母だったので、夫婦喧嘩はよくありました。しかし、私たちの前では「あんたらのお父さんはすごい人やで」と言い続けたのです。「すごく良く仕事ができる」「ものすごいカッコいい」と、禿げかけた小太りの父のことをです。姉も妹も年頃になっても父のことを嫌にならなかったのは、母が父のことを大事にし続けたからだと思います。母は、自分の母親が父親の愚痴を言うのを聞いて育ち、父親に対して不満があったそうです。しかし、信仰をもって聖書を読むと「妻たちよ、夫に従え」と書いてある。父と母を敬う子どもに育てるには、まず自分が夫を大切にすることなんだと、聖書から教えられたのです。このことは、私たちきょうだいに、従うべき父親像を健全に築いてくれたと思います。子どもたちに、あのお父さんとお母さんのような夫婦になりたいと思わせること、それが信仰継承には一番大切なことだと思います。



2. 自分の信仰を自分の言葉で話す

私が小学校低学年の時、母が教会で聖書の学びをして帰ってくると、「重徳、今から聖書の学びするぞ」と突然言ってきました。神様が創造主であること、罪のこゝろと十字架の話しながら、いきなり母はボロボロ泣き始めました。「私は罪人やー。イエス様は私の罪のために十字架にかかって死んでくださったんやー」と話す母の横で、「うん、僕にも罪がある」と私も泣きながら言いました。

母と一緒に悔い改めの祈りをしたその部屋や日差しの色を、今でも鮮明に覚えています。母は、自分の信仰がだらしないこと、弱いことを伝え、立派な信仰体験談はありませんでしたが、でもそこに神様がいてくださるその恵みをよく話してくれました。

クリスチャンホームで育つ子どもたちは、幼い頃から教会に行っていて、信仰がわかっていてと思われがちです。しかし、私が学生伝道をやってきてわかることは、聖書のお話はたくさん知っていても、救われるとはいったいどういうことなのかわからない学生たちがたくさんいるのも事実です。そして、親から離れた時に、人生の嵐が来た時に、なんの役にも立たなくなる。

親として、子どもたちの人生を支える信仰の話を自分の言葉で伝える準備ができているでしょうか。

4. 聖書の言葉を日常の中で語り合う

母はクリスチャンとして敬虔なタイプではなかったのですが、ここで話さなきゃいけないということは、聖書で勝負してきました。

受験で落ちたかもしれないと落ち込んでいる時に、「罪からくる報酬は死です」と手紙を書いてくる母です。ある時は「今日の朝、み言葉から教えられたのですが、あなたは最近高慢になっていませんか」と書いてきます。家庭礼拝ってものがいらいらいと教会から聞いてきた母は、急に「今から家庭礼拝、始めます」と言うんです。私は、これが嫌で嫌で仕方ありませんでした。でも、クリスチャンの妻と結婚して、夫婦セミナーに行くと、家庭礼拝が大事だと語られます。妻は目をキラキラさせながら「やりたいよね！」私は牧師だから「うん、うん」と言わざるをえない。そんな時、ある集会で講師の先生が「ご主人は、妻にリーダーシップを任せたいという、リーダーシップをとった方がいい」と言われるのを聞き、それから、〇歳、一歳の子どもと、寝る前に布団の上で、妻が導く家庭礼拝が始まりました。家庭礼拝のコツは五分以内。長かったり、本気でやるのはダメです。うちは、振り付けしながら歌って、暗唱聖句して、嬉しかったこととお祈りしてほしいことを順番に言って、全員でお祈りする。これを毎晩しました。息子はずっと逆立ちしていた時期がありましたが、神様の前に出るのに、ちゃんとしていなきゃいけないと思えずぎないようにしました。神様の前に出るのって楽しいことだよ、って教えてあげたかったです。

ある時は、子どもが「今日のお父さんの怒り方は罪だと思います」と言うので、「すみませんでした」と私も謝りました。お父さんも神様には頭が上がりません。子どもは学びます。親が子どものために祈るように、親も子どもから祈ってもらう親となること、子どもに赦されやすい親になること、祈られやすい親になることは大切なことです。高校生になった息子が、「今日、中間テストだから祈って」と言って学校に行きます。家庭礼拝の実験結果を今、見させてもらっています。



3. 親父を乗り越えろ

私は中一の時に、イエス様を信じました。うちは日蓮宗の家でしたので、大嶋家の長男は元旦に父親と一緒に御参りに行くこと決まっていた。母は「重徳、あんた信仰もったんやったら、元旦どうするか、自分の口でちゃんとお父さんに言いや。信仰はあんたのもんやろ」と言って追い込んできました。父は超怖い父でしたので、そんなことを言う勇氣はとてありませんでした。先延ばしにしていたら、大晦日の朝に「重徳、言うたんか？ 私は知らんで」と母から言われ、私はついに、夜、ほろ酔いの父に言いました。「お父さん、僕はイエス様を信じたんや。だから明日は教会の元旦礼拝に行きたい。」父は落ち着いた顔で「おまえが何を信じるかは二十歳になってからおまえが決めたらええ。今は俺がおまえを育ててんねんから、俺の言うことを聞くべきやうか」と淡淡と言いました。私はポロポロ泣きながら「でもお父さん、僕が間違った信仰もってたら、しばいてでもいいから引きずり戻して。僕のこの信仰を信頼してくれへんかな」と話しました。すると父は「わかった。教会に行ってもいいぞ」と言ってくれました。母は、信仰には逃げたいいけない戦いがある、譲ってはいけない告白があることを教えてくれました。父は、後になって母に「重徳が初めて俺に勝負してきた。俺はそれが嬉しかった」と話したそうです。



一円献金プロジェクト

REPORT
OF 2020

カンボジア・プロジェクトのご報告

カンボジアには韓国から救世軍の伝道チームが派遣され、現地の活動をサポートしています。子どもたちへの給食サービスを支援するため、**1,022,509円**を送ることができました。皆様のご協力をありがとうございました。



* カンボジアでは、新型コロナウイルス感染症の影響が甚大で、救世軍が活動するシェアムリップの地域は困難な状況が続いています。給食支援や子どもたちへの働きが再開できるよう、引き続き皆様のお祈りをお願いいたします。（写真はコロナ前の様子）

今年の支援先は！

2021 インドネシア・プロジェクト

インドネシアは2018年に発生した地震と津波によって甚大な被害を受け、今でも多くの支援が必要とされています。

■ マイクロクレジット・プロジェクト

家族の生活や子どもの学費のために働く女性に、少額の融資を行い、起業や事業継続の支援を行っています。

■ 女性のための開発セミナー、ワークショップの開催

将来に向けた良い備えができるように女性の能力開発を助けます。



2020年『はあもに』の売上から、68,979円を一円献金として、繰り入れました！

次号は2022年1月発行

『はあもに』定期購読のご案内

* 売上の一部を一円献金として海外支援に用います

定期購読料	1冊200円（税込・送料別）
	年間3回（1月、5月、9月）発行
	合計600円（税込・送料別）

ぜひ定期購読をお近くの救世軍へお申し込みください

お問い合わせ

救世軍本営 女性部はあもに係（QRコード右）
TEL：03-3237-0881（代） FAX：03-3237-3588
E-mail：jpn.women.harmony@jpn.salvationarmy.org
Address：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17



海外支援

みんなの小さな助けが集まって
大きな働きになる



一円献金

私にできる海外支援

一円献金とは？

日本の救世軍では、1968年から女性たちが中心となって、一年かけて最小単位の貨幣である1円をコツコツと貯め、海外支援のために献げてきました。毎年、支援を必要としている国の救世軍と相談して具体的なプロジェクトを計画し、「一円献金」を直接送金しています。プロジェクトの詳細については、左ページをご覧ください。皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

* 献金は救世軍の小隊や施設で随時受け付けています。近年、大量の1円を入金する際に手数料がかかるようになりました。お持ちくださる時は、なるべく大きなお金に両替するようご協力ください。また、下記の救世軍ホームページからも寄付することができます。

<https://www.salvationarmy.or.jp/donation>（『一円献金』とご指定ください）

PRESENT

プレゼント企画

「はあもに広場」に投稿しませんか？

次回の広場テーマ 「コロナ禍が落ち着いたらやりたいこと、行きたいところ」

特集でご紹介した大嶋重徳先生の本を抽選で3名様にプレゼント！



1 『おかんとボクの信仰継承』 いのちのことば社



雑誌「恵みの雨」（出版：新生宣教団、現在は休刊）で2008年から連載されていたおかんとのエピソードと、月刊「いのちのことば」で連載された自分自身が父親になってからのエピソードなどをまとめたエッセイ集。
定価 ￥990（税込）

2 『朝夕に祈る 主の祈り-30日間のリトリート』 いのちのことば社



「神に祈る」とはどういうことなのだろうか。イエスご自身が弟子たちに「こう祈りなさい」と教えられた「主の祈り」を一節ずつもとき、「祈り」とは何なのか、神とはどういう方なのか、キリスト教信仰とは何かを学ぶ。朝と夕、30日分のディボーションでも、家庭礼拝でも使える一冊。
定価 ￥1,100（税込）

上記の投稿内容とご希望のプレゼント番号、お名前、ご住所を書いて、右上のQRコード、またはメール・はがき・FAXで左ページお問い合わせ先へご応募ください。『はあもに』の感想もぜひお寄せください！（10月15日〆切。当選結果は商品の発送をもって代えさせていただきます。）



救世軍は、キリスト教（プロテスタント）の教会で、伝道活動とともに、様々な問題で苦しみ、助けを求めている人々のために、130以上の国と地域で社会福祉・教育・医療などの支援を行っています。救世軍について詳しくはホームページをご覧ください。
<https://www.salvationarmy.or.jp>